

2025 年 10 月 27 日

各 位

株式会社 三十三銀行

令和 7 年度「三十三ふるさと三重文化賞」の受賞者決定のお知らせ

公益財団法人三十三ふるさと文化財団（理事長：道廣 剛太郎）は、社会貢献事業として三重県の文化向上に顕著な貢献をされた方々を顕彰する目的で「三十三ふるさと三重文化賞」を贈呈し、その功績を讃えております。今般、令和 7 年度「三十三ふるさと三重文化賞」の受賞者を下記の通り決定しましたのでお知らせいたします。

「三十三ふるさと三重文化賞」の贈呈は、平成元年度から始まり本年度で 37 回目となります。

今後も同財団では、県民文化の発展と潤いのあるふるさとづくりに一層努めることで、地域文化発展のお役に立ちたいと考えております。

記

1. 受賞者

■美術部門(写真)

牛場 和美 様 79 歳
住所：津市

■美術部門(日本画)

天野 澄子 様 84 歳
住所：鈴鹿市

■文学部門(小説・評論)

福田 和幸 様 77 歳
住所：伊賀市

※受賞者の詳細につきましては、**別紙**をご参照ください。

2. 表彰式

■日 時 2026 年 1 月 24 日（土） 午後 1：30 より

■場 所 クラギ文化ホール(松阪市川井町 690 番地)

〈二次元コード〉

表彰式に続き、定期コンサート「岡本知高リサイタル」を開催します。

表彰式・コンサートへの入場には入場券が必要です。

入場券の申込み受付は、11/4(火)9：00 より実施いたします。右記二次元コードまたは、三十三銀行ホームページ内（セミナー・イベント欄）よりお申込みください。

https://www.33bank.co.jp/seminar/33furusato_20260124.html



以 上

別紙

令和7年度「三十三ふるさと三重文化賞」受賞者

■美術部門（写真）

牛場 ^{うしば} 和美 ^{かずみ} 79歳 住所：津市

昭和53年に「全日本写真連盟だいこん支部」を創設以来、生活風景を中心に人物スナップ、動物、ネイチャーと幅広い分野で撮影しています。これまで「みえ県展」優秀賞、「中部公募展」最優秀賞、「日本の自然写真コンテスト」吉野信賞、「三重県文化賞」文化奨励賞など、多数受賞しています。また、平成19年には世界60ヶ国で撮影した生活風景の写真集「世界の人々との出会い」を三重県立図書館及び津市津図書館と近隣の図書館に寄贈し、写真文化の普及に努めています。加えて、令和元年には全日本写真連盟「三重県本部委員長」を務め、県下支部の例会指導に力を注ぐなど、後進の育成に尽力することで、三重県の写真芸術の発展と向上に努めています。さらに、平成27年より県内写真講座の講師を多数務めているほか、津市美術展審査員をはじめ、県内美術展の審査員を歴任するなどしており、写真芸術の振興に貢献しています。



■美術部門（日本画）

天野 ^{あまの} 澄子 ^{すみこ} 84歳 住所：鈴鹿市

故 奥山芳泉氏を中心とした県内日本画制作団体の門下生として活動し、これまで「津市民展」市長賞、「みえ県展」優秀賞を受賞。平成2年より木村光宏氏に師事。木村光宏主宰の閑輝会、朱生会に属し、日展、日春展関西展、グループ展などに出品しており、「日展」特選など、多数受賞しています。その活動は県内に留まらず、新しい発想と確かな技術が常に求められる中央の公募展へ永年にわたり出品を重ねています。出品サイズは大作ともなると150号（2,273ミリ×1,818ミリ）となる中で、気力と体力を駆使しながら、今もなお制作活動に力を注いでいます。県内においては、鈴鹿市民展、四日市市民展、津市民展などの審査員を多数務めてきたほか、自身の受賞作品を鈴鹿市に寄贈するなどしています。また、こうした活動を永きにわたり続けており、三重県の日本画の歴史を知り、県の日本画を牽引・背負う存在として日本画の発展・継承に貢献しています。



■文学部門（小説・評論）

福田 ^{ふくだ} 和幸 ^{かずゆき} 77歳 住所：伊賀市

伊賀地域ゆかりの近・現代文学について研究を続けており、昭和55年に作家、横光利一に関する未公開資料を収録した「青春の横光利一」（共編著）を刊行。平成10年には横光利一誕生百年記念の講演会や劇などの企画の中心となり、翌年から「横光の人と文学を偲ぶ〈雪解〉のつどい」を開催し、四半世紀を超えて横光文学の顕彰に務めています。また、平成7年に地域文化誌「伊賀百筆」の発刊同人となり、「伊賀の文学風土記」を連載し伊賀にゆかりの作家や作品を分かりやすく紹介してきました。令和2年には伊賀ゆかりの作家、作品の研究や顕彰活動を目的とした伊賀文学振興会を発足させその代表として岸宏子記念伊賀文学館の開設にも協力しました。令和7年に「伊賀の国 文学の森」を出版し、明治以降の伊賀ゆかりの多数の作家、作品に論評を加えて紹介するなど地域文化の振興に努めています。

